

## 非製造業の景況DIが再びマイナス70台後半まで悪化

10月の情報連絡員報告によると、前年比の景況DI値は、前月非製造業が1年半ぶりにマイナス60台まで回復したのもつかの間、一転してマイナス70台後半まで悪化した。

製造業についても回復傾向を示していた売上高が落ちこんでおり、一旦底を打ちつつあるかに見えた景況も余談を許さない状況となっている。情報連絡員からの報告にも、売上状況が一定せず、状況判断が難しい旨の報告が届いている。

【製造業63人、非製造業87人、計150人の集計】

### 各項目のDIの動き（前年同月比）

|       | 全 体 | 製造業 | 非製造業 |
|-------|-----|-----|------|
| 売上高   | 😊   | 😊   | 😊    |
| 在庫数量  | 😊   | 😊   | 😊    |
| 販売価格  | 😞   | 😞   | 😞    |
| 取引条件  | 😞   | 😞   | 😞    |
| 収益状況  | 😞   | 😊   | 😊    |
| 資金繰り  | 😊   | 😊   | 😊    |
| 設備操業度 | 😞   | 😞   | —    |
| 雇用人員  | 😞   | 😞   | 😞    |
| 業界の景況 | 😊   | 😊   | 😞    |

- 😊 …増加、上昇、好転
- 😐 …不変
- 😞 …減少、低下、悪化

## ✓ 行政庁・中央会に対する主要望事項

| 集計上の分類業種 | 具体的な業種  | 主要望事項   |
|----------|---------|---|
| 鉄鋼・金属    | 建築金物製造業 | 住宅建設優遇策を早期に実施してほしい。                                     |
|          | 製 缶 業   | 排除型私的独占に関する講習会を実施していただきたい。                              |
|          | 鍍金加工業   | 事業継続のためには債務返済猶予など、実効ある施策を講じてほしい。                        |
| 建 設 業    | 建具工事業   | 低迷が著しい建設、住宅関連産業への支援策を求む。                                |
| 食 品      | 麵製造業    | デフレに歯止めをかける政策の実施を望む。                                    |
| 繊維・同製品   | 帆布製品製造業 | 補正予算は旗・幕・テント等の受注につながっていた。新政権が行っている補正予算の削減は今一度、見直して頂きたい。 |

平成21年  
10月

# 業 界 の 声

## 製 造 業

| 集計上の分類業種      | 具体的な業種      | 組合及び組合員の業況等   |
|---------------|-------------|---|
| 食 料 品         | 麵製造業        | 小売・飲食業界における値下げ競争の余波で販売価格の下落が激しい。  |
|               | 中華麵製造業      | 麦価は下がったものの、中華麵一食あたり、実質1.2円ほど。販売価格に反映させようがない金額であるが、マスコミ報道で取り上げられると、販売先が値下げ要請をしてくる結果となり、対応に苦慮することが予想される。  |
|               | 製粉業         | 来年10月より外国産麦の売り渡し制度が変更される模様。実際のオペレーションがどのようになるにせよ、関連企業を含め、かなりの影響をこうむる事になる。   |
| 織 維 ・ 同 製 品   | ネクタイ製造業     | クールビズ期間（6月～9月）の売上は前年比89%。クールビズ開始前の平成16年と比較すると66%となっている。業界では5年後には50%まで減少すると見込んでいる。   |
|               | 帽子製造業       | 組合員の製品は厳しい品質基準に基づいて作られている。海外からの粗悪品とは品質が全く異なることを消費者には知ってほしい。   |
|               | 帆布製品製造業     | 10月は売上の期待できる月であるにもかかわらず、売上は非常に低迷した。見積もり件数は増えているが、受注にまで至らない状況が続いている。   |
|               | 洋服製造業       | 景況は依然悪化。先行きは不透明である。   |
|               | ニット製品製造業    | 百貨店をはじめとして価格破壊が浸透し、高付加価値であっても高額な衣料品は見向きもされない状況にある。  |
|               | 織物製造業       | 一部には前年比で僅かに回復した組合員もいるものの、全体としてはさらに悪化している。   |
| 木 材 ・ 木 製 品   | 建具製造業       | 受注の落ち込みが続いており、職人も悲鳴を上げている。建築基準法の抜本の見直しが国土交通大臣から指示されたが、法律改正が仕事量の増加につながることを期待している。  |
| 印 刷           | 印 刷 業       | 今年度に入り、企業規模の大きい組合員が脱退した。組合財政への影響が懸念される。組合員の仕事量は依然大きく落ち込んでいる模様。  |
|               |             | 多少動きが出てきている。年末に向けて出版関係の受注を期待している。   |
| 化 学 ゴ ム       | 塗料製造業       | 自動車・機械・電気・金属製品向けを中心に、徐々に需要は回復傾向にある。   |
|               | プラスチック製品製造業 | 10月は受注、生産量とも低調。季節ものの手帳カバーは前年比90%の見込み。また、商品納入時に値下げ要請があるなど取引条件も悪化している。  |
|               | ゴム製品製造業     | 組合員に景況の2極化が進む。売上が前年比50%～60%減少している組合員と10%～20%でとどまっている組合員に分かれ始めている。   |
| 窯 業 ・ 土 石 製 品 | コンクリート製品製造業 | 10月の共同購買実績は前年比50.6%。売上が伸びた前月の反動で売上・手数料収入とも減少した。従来であれば、秋口の需要期にあたり、大きく売上を確保しているところだが、政権交代による模様眺めもあるのか、公共工事は減少したままである。民需の冷え込みは相変わらずで、八方塞りの状況である。 |
|               | 生コンクリート製造業  | 今年度上期の組合員出荷数量は前年比92.5%で5半期連続して大幅減少が続いている。   |
| 鉄 鋼 ・ 金 属     | 電線製造業       | 受注は回復傾向にはあるが、ユーザーの電線在庫が尽きたことによる発注と思われ、現在の回復傾向が維持できるか判断できない。2番底への懸念が払拭できない。  |
|               | 金属熱処理業      | 状況は一進一退である。毎月の状況がどのように変化するか皆目判らず、不安感が漂う。ましてや、先行きの見通しなど立てようがない。また、将来的に電気自動車など新技術において、金属熱処理工程が減少することの可能性が懸念されている。                               |
|               | 鋳物製造業       | 10月に入り受注量がさらに落ち込んだ。深刻な状況下で今後の受注回復に期待するほかない。   |
|               | 鍍金加工業       | 受注の減少が下げ止まり、一時は休日返上で操業した組合員もいたが、月末には受注量が再び減少。先の見えない状況が続く。極端な受注減は脱したが、回復には至っていない。賞与の支給停止や年末の資金繰りが困難になることは懸念される。                                |
|               | 建築金物製造業     | 売上、収益状況ともに改善の動きが見られるが、前年比では未だ改善していない。   |
| 一 般 機 械       | 写真製版機材製造業   | 広告や出版、一般印刷に至るまで、印刷料金は低下しており、ユーザーの収益状況は厳しい。このため製版材料の売上げにも大きな影響が出てきている。   |
| そ の 他 の 製 造   | ガス圧接業       | 建築着工数は依然として低迷しており、受注単価の下落も止まらない。廃業する企業も、この状態が続けば業界の存続の問題へと発展しかねない。  |
|               | スポーツ用品製造業   | 東京都のオリンピック開催地の落選は、期待が大きかっただけに残念であった。市場は冬物が中心となりつつあるが、売上状況は好転していない。新型インフルエンザの流行も消費の足枷になっていると思われる。  |

平成21年  
10月

# 業 界 の 声

## 非 製 造 業

| 集計上の分類業種 | 具体的な業種            | 組合及び組合員の業況等  |
|----------|-------------------|--|
| 卸 売      | 電線卸売業             | 受注案件は少なく、先物物件（価格の安い時期に在庫として買うこと）の引き合いも限られているため、今後の回復を望むことは困難。日本電線工業会発表の本年度の電線需要見込みは前年比14.6%減となっている。これは40年近く前の水準である。                                      |
|          | 再生資源卸売業           | 組合の恒例イベントである研修旅行を今年も実施した。組合員間の連携意識を醸成するためのイベントであり、設立以来15年、毎年欠かさず実施している。  |
|          | 食器卸売業             | 今後の政治の行方に不安がある。組合員には後継者難という問題が横たわっている。   |
|          | 木材卸売業             | 仕入先から値上げの要請があるが、需要が低迷しているため応じることはできない。   |
|          | 理容用品卸売業           | 1年がかりで取り組んできたイベントである「東京理容まつりin浅草」が執り行われた。入場者数は2千余名、売上は2,500万円（設備は除く）に達し、成功裏に終了した。本イベントは宣伝、売上等の成果のみならず、組合員自らの手でイベントを成功させた達成感、組合員間の結束力の醸成等、様々な成果を得ることが出来る。 |
|          | 銅製品卸売業            | メーカーは回復しつつあると思われるものの、流通業界の厳しい状況には変わりがない。   |
|          | 紙卸売業              | 本来需要期であるにもかかわらず、売上状況は悪化。年越しの資金繰りが懸念される。  |
|          | 家具卸売業             | 今期中に1、2社の脱退者が出ることが危惧されている。   |
|          | スポーツ用品卸売業         | 依然として消費の低迷により厳しい状況が続いている。  |
| 小 売      | 化粧品小売業            | 化粧品メーカーとの取引条件が、零細店舗にとって厳しい内容に改変された。利益が薄く、厳しい状況が続いている。  |
|          | 木材小売業             | 9月末から、一段と売上が減少している。  |
|          | 古書籍小売業            | 「読書の秋」であることから、各地でイベントが開催されているが、人出の割に売上に結びつかない。   |
|          | 包装材料小売業           | 販売価格の値上げが検討されるものの、毎回、実施直前になって立ち消えとなる。メーカー、卸も含め値上げによる客離れを懸念するあまり、実現しないものと思われる。  |
|          | 自動二輪小売業           | 電動式自転車は運転免許が不要で交通法規の適用が甘く、駐車違反摘発の心配もない等、自動二輪車に比べ利便性が高い為、昨年度の売上台数は自動二輪車を越えた。しかしながら実測調査において自動二輪車は、都市部における最も迅速な交通手段であるとの結果も出ており、消費者には自動二輪車を是非とも見直してほしい。     |
|          | 青果小売業             | 天候の影響で青果物の収量が増加、価格が下落した影響で収益状況が悪化している。   |
|          | 文具小売業             | いくつかの斬新な新製品には需要が見込めるものがあり、消費者の動向が注視される。  |
|          | 食品小売業             | 生鮮（青果・精肉・鮮魚）の売上が特に減少した。青果・精肉は販売価格が下がった影響によるが、鮮魚については客離れの現象が見られる。加工食品は前年と同程度である。  |
|          | 電器製品小売業           | 10月は出足が好調であったものの、中旬以降、地域家電販売店の売上は大型商品を中心に落ち込んだ。液晶TVの売れ筋品の小型化（26型～19型）が顕著。エコポイント制度は交換商品が届くまで約3ヶ月を要しており、消費促進策になっていない。                                      |
|          | 中古自動車小売業          | 10月の中古車専門販売業者の売上は不振を極めた。   |
|          | 衣料品小売業            | 売上が大幅に落ち込んでいた昨年同月と比べても2桁、売上が落ち込んでいる。   |
|          | 豆腐小売業             | 10月の廃業者は7名。売上は伸びず、苦しい経営が依然続いている。組合では豆腐業界の今後の展望について講演会を実施するなど、組合員と共に打開策を探っている。  |
|          | ペット小売業            | 恒例の秋の鳥獣供養祭を実施したが、参加者は半減し、卒塔婆も少なく、さびしい限りであった。組合の存続を危ぶむ声も出ている。   |
|          | 家具小売業             | 現在の厳しい状態が続いた場合、年末の企業動向が懸念される。  |
| 自転車小売業   | 前年に比べ売上高の落ち込みが顕著。 |  |

|      |          |  |
|------|----------|--|
| 商店街  | 秋葉原      | 10月22日に販売が開始されたウィンドウズ7の人気で賑わいを見せ、搭載パソコンが好調であった。またビジュアル関連の売上も堅調であるが、単価のダウンは相変わらずである。                    |
|      | 合羽橋      | 10月開催のイベントセールの上上が前年比約14%の減少。   |
|      | 目黒       | 売上状況は、悪いながらも安定期に入りつつあり、底打ち感が出てきたようである。   |
|      | 銀座       | 安売り店が混雑する一方、専門店には足が向かない。   |
| サービス | 廃棄物処理業   | 廃棄物排出量の減少と再生資源価格の下落が収益状況を圧迫しているが、回復の兆しも見えつつある。   |
|      | クリーニング業  | 過去においてはこの時期、第二のクリーニング需要のピークであり、きれいに仕上げられた夏物のワンピースやブラウスが引取りを待って、店頭をカラフルに飾っていた。しかし現在は婦人物が激減し、さびしいかぎりである。 |
|      | 複写業      | 売上高は10%程度減少しているものの、販売管理費、外注費や仕入れコストの削減に努めた結果、収益は若干改善した。しかしながら、厳しい状況は依然続いており、資金繰りも困難である。                |
|      | 飲食業      | 連休で出費すると外食を控える傾向にある。都心部では休みが多いことはメリットとならない。  |
|      | 公衆浴場業    | 公衆浴場の活性化について東京都と共に検討しているものの、解決策が見当たらない。  |
| 運送   | 貨物自動車運送業 | 廃業、倒産により組合を脱退する事例が目立つ。収支や資金繰り等の状況は悪化の一途をたどっている。  |
|      | 港湾運送業    | 東京港での貨物取扱量増大のため海外でも誘致活動を行なっているが、取扱量は減少傾向にある。   |
| 建設   | 管工事業     | 新政権により公共工事が一層削減されることが懸念される。  |